

2025年3月期 第3四半期決算説明資料 트레이ダーズホールディングス株式会社

証券コード：8704
2025年1月31日



JPX-NIKKEI Mid Small



金融を、もっと面白く。

金融を、もっと面白く。

Traders

2年連続でJPX日経中小型株指数に組み入れられました



JPX-NIKKEI Mid Small

2023 - 2024年度選定

- 01 2025年3月期 第3四半期業績ハイライト**
- 02 2025年3月期決算 決算見通し**
- 03 修正後業績予想達成に向けた2025年3月期の施策進捗**
- 04 資本政策**
- 05 Appendix**

金融を、もっと面白く。



2025年3月期 第3四半期 業績ハイライト

2025年3月期 第3四半期 エグゼクティブサマリー

金融を、もっと面白く。



第2四半期における円キャリートレードの急激な巻き戻しによる円高進行により、トルコリラ・メキシコペソ等の高金利通貨を中心に多額の顧客実現損失が発生した影響で、第3四半期は同通貨の取引量が減少した一方、ドル/円の取引条件を強化したこと等によりメジャー通貨ペアの取引ウェイトを拡大することに成功した結果、第3四半期累計では、前期の通期営業収益合計、営業利益、経常利益および当期純利益を超過するとともに、営業利益、経常利益および当期（四半期）純利益では、期初の年間業績予想の金額も超過したため、好調な業績推移により期末の業績予想を上方修正する形となった

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月 第3四半期	前年同期比
営業収益	7,830 百万円	10,561 百万円	+34.9%
営業利益	3,768 百万円	5,611 百万円	+48.9%

2025年3月期 第3四半期トピックス

金融を、もっと面白く。



営業収益

105 億円

前年同期比

+27 億円

- ✓ トルコリラ/円およびメキシコペソ/円を中心とした高金利通貨の取引量は減少したものの、米ドル/円の取引拡大施策が寄与した結果、営業収益は第3四半期で前期の年間営業収益101億円を上回る好業績となった

販売費及び一般管理費

48 億円

前年同期比

+ 9 億円

- ✓ 預り資産の年間増加目標を達成するため、営業収益の増加に合わせて広告宣伝費予算も拡大し、取引関係費が増加
- ✓ 譲渡制限付株式報酬に関する会計上の見積りの変更（費用処理期間の短縮）による要因有

営業利益率

53.1 %

前年同期比

+ 5.0 %

- ✓ 第3四半期の営業収益は上期より若干減速したものの、1,070億円超の預り資産を背景に堅調に推移した結果、第3四半期累計期間においては引き続き高営業利益率を維持

預り資産残高

1,073 億円 (2024年12月末時点)

前期末比

+63 億円

- ✓ 業界最高水準のスプレッド・スワップ等の取引条件による顧客満足度から継続的な増加トレンドを維持し、第2四半期の相場急変に伴う多額の実現損発生による減少をこなして再び純増へ転換

四半期連結業績

金融を、もっと面白く。



第3四半期は市場が落ち着きを取り戻し大きな波乱要因は発生しなかったため、相場要因の営業収益の急増はなかったが、1,000億円台を達成した預り資産の取引意欲を背景に営業収益は底堅く推移した

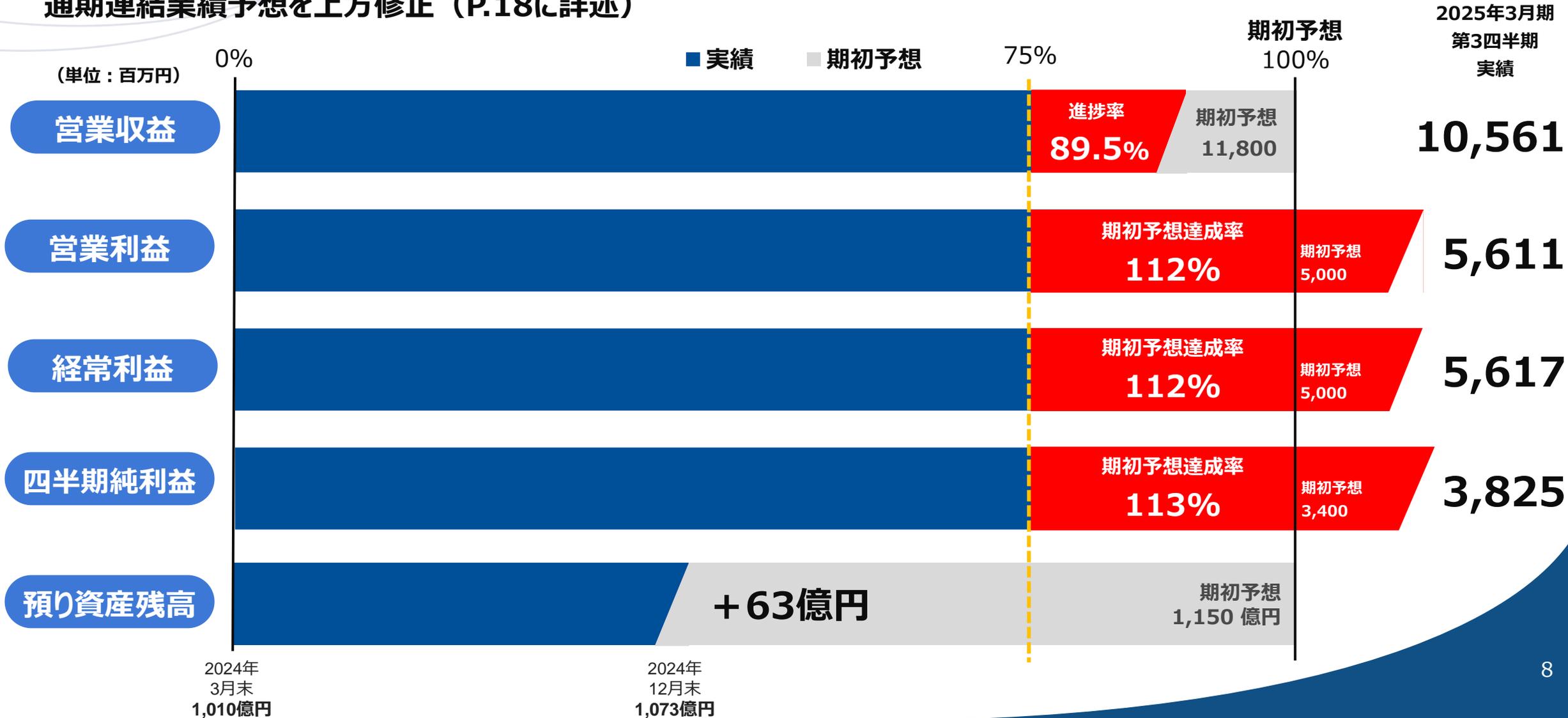
(単位：百万円)	2024年3月期				2025年3月期			前年同期比 (3Q)
	1Q (2023年4-6月)	2Q (2023年7-9月)	3Q (2023年10-12月)	4Q (2024年1-3月)	1Q (2024年4-6月)	2Q (2024年7-9月)	3Q (2024年10-12月)	
営業収益	2,840	1,773	3,216	2,273	3,513	4,143	2,903	▲9.7%
営業利益 (利益率)	1,593 (56.1%)	269 (15.2%)	1,905 (59.2%)	644 (28.3%)	2,054 (58.5%)	2,219 (53.6%)	1,337 (46.1%)	▲29.8%
経常利益 (利益率)	1,582 (55.7%)	263 (14.9%)	1,907 (59.3%)	636 (28.0%)	2,051 (58.4%)	2,233 (53.9%)	1,332 (45.9%)	▲30.1%
四半期純利益 (利益率)	1,312 (46.2%)	193 (10.9%)	1,372 (42.7%)	456 (20.1%)	1,485 (42.3%)	1,400 (33.8%)	939 (32.4%)	▲31.5%

四半期連結業績進捗率

金融を、もっと面白く。



営業利益以下各段階利益について、第3四半期累計期間の実績が通期期初予想を超過
通期連結業績予想を上方修正（P.18に詳述）



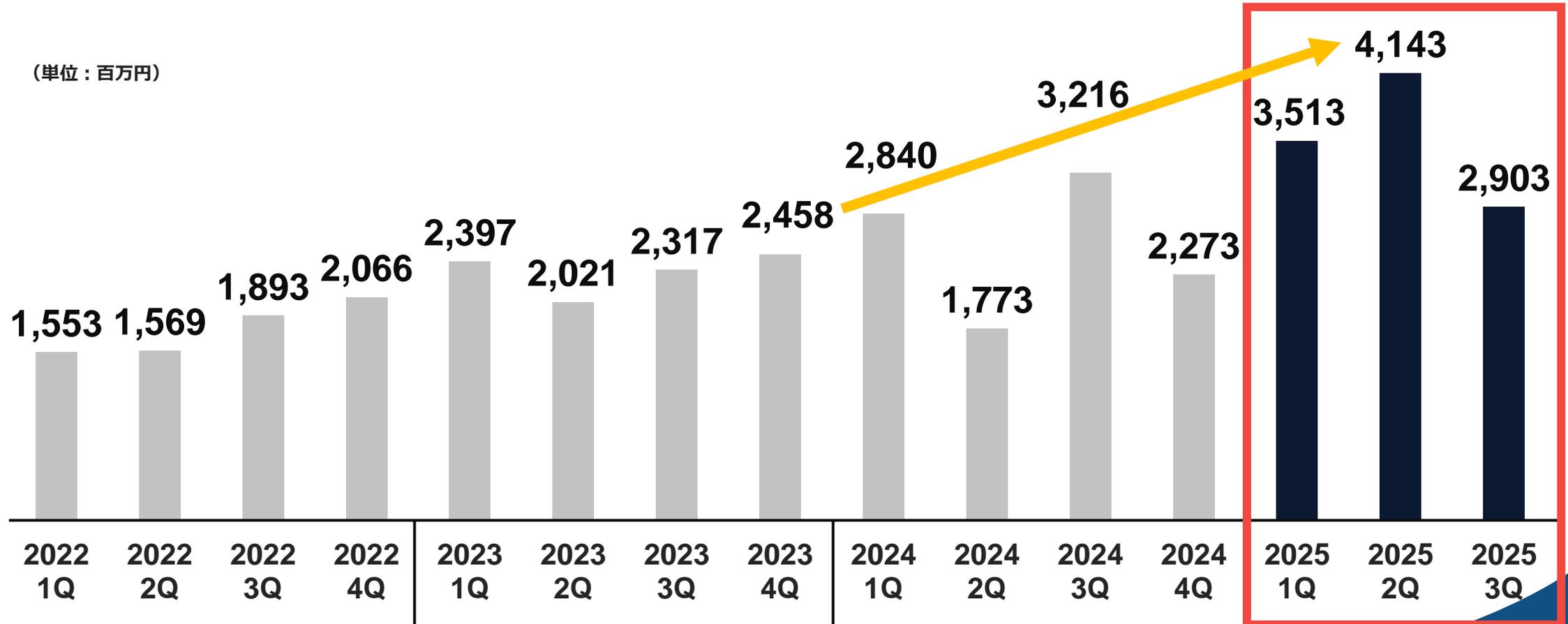
業績推移（営業収益）

金融を、もっと面白く。



顧客基盤の拡大（預り資産の増加）を背景に、相場が大きく動いたタイミングでの営業収益の伸び（到達ライン）が大きくなっており、前期より四半期毎の営業収益は相場急変による活況があったか否かによる上下変動幅が大きくなる傾向がある。第3四半期は相場の波乱要因はなかったものの、好調な預り資産増加を反映してベースとなる収益力により比較的堅調に推移

（単位：百万円）



販管費の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 営業収益の増加を背景に、更なる新規顧客の獲得および取引促進のため、広告宣伝費（取引関係費）を積極的に増加
- ✓ 当期の人件費は、譲渡制限付株式報酬に係る会計上の見積りの変更を第2四半期に行ったことに伴い、第2四半期では累積的影響を含めて約2.5億円の増加要因となり、第3四半期においては同変更の影響および従業員賞与の支給基準を年1回から年2回に変更した影響により、対前年同期比で約1億円の増加要因となった

※2024年3月期より、「売上原価」に含めていた一部の人件費等の費用について、「販売費及び一般管理費」に含めております。そのため、2023年3月期の数値についても同様の組替えを行っております。

(単位：百万円)



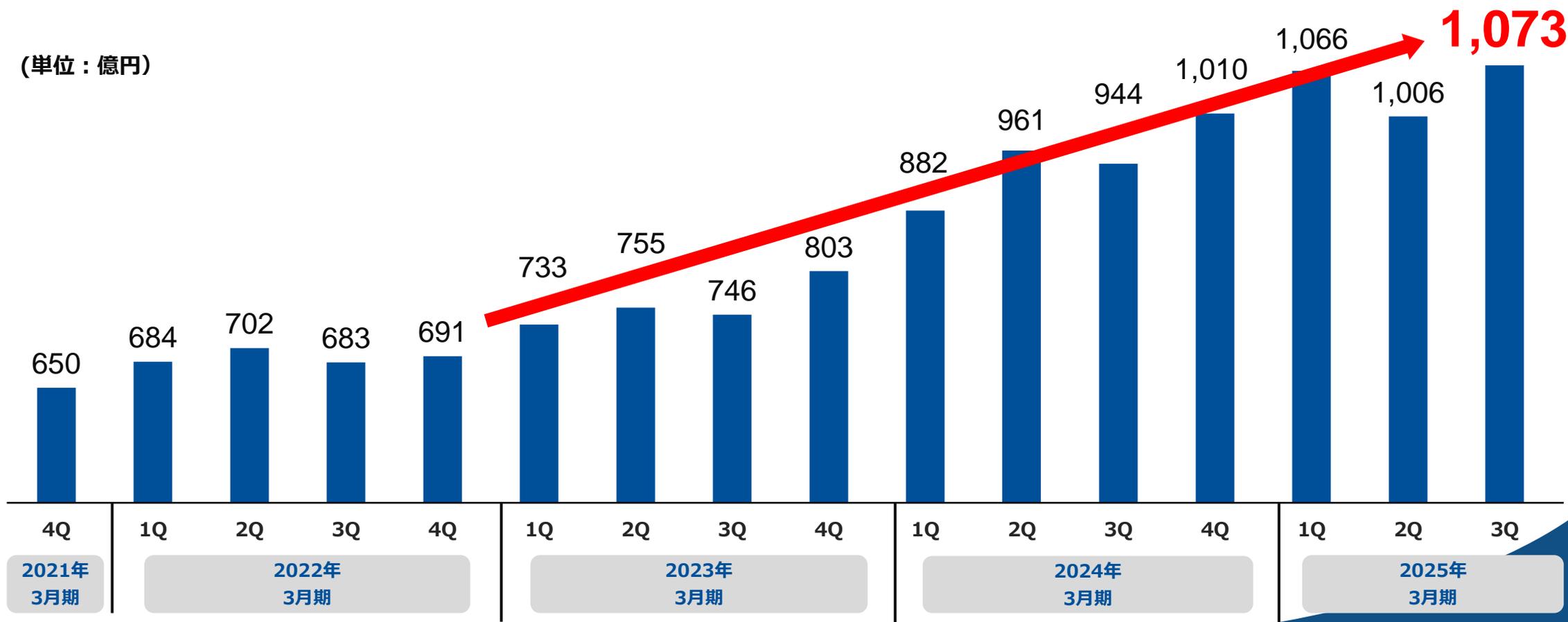
預り資産推移

金融を、もっと面白く。



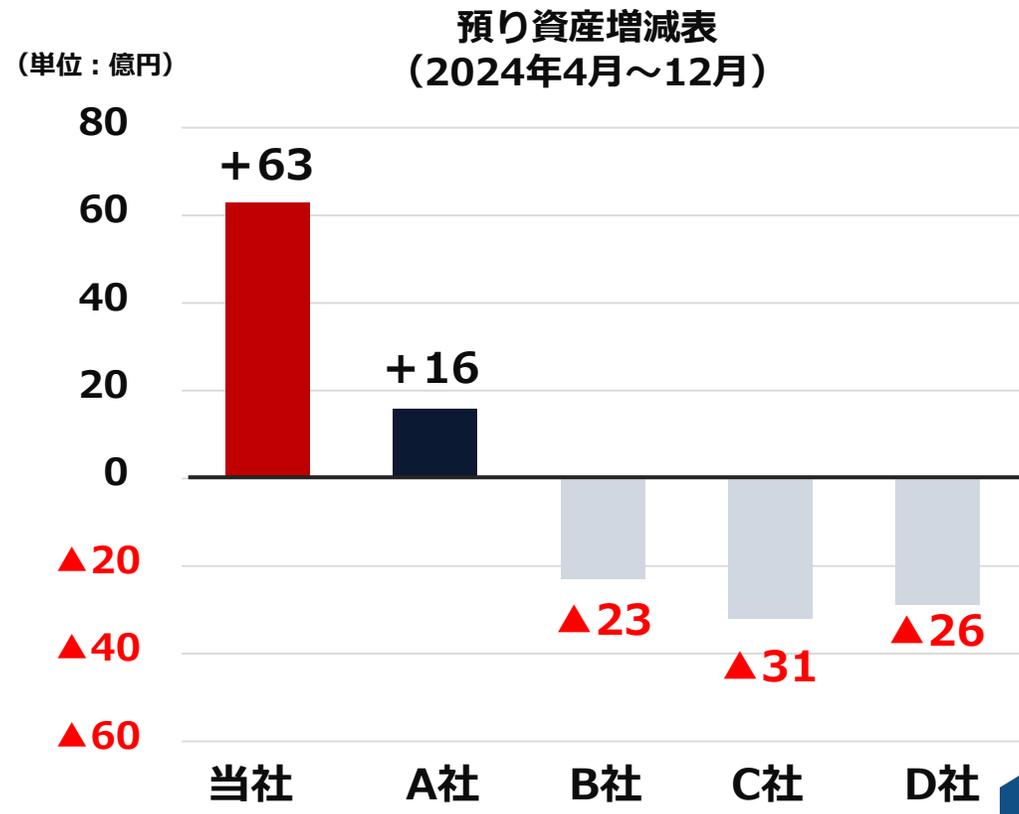
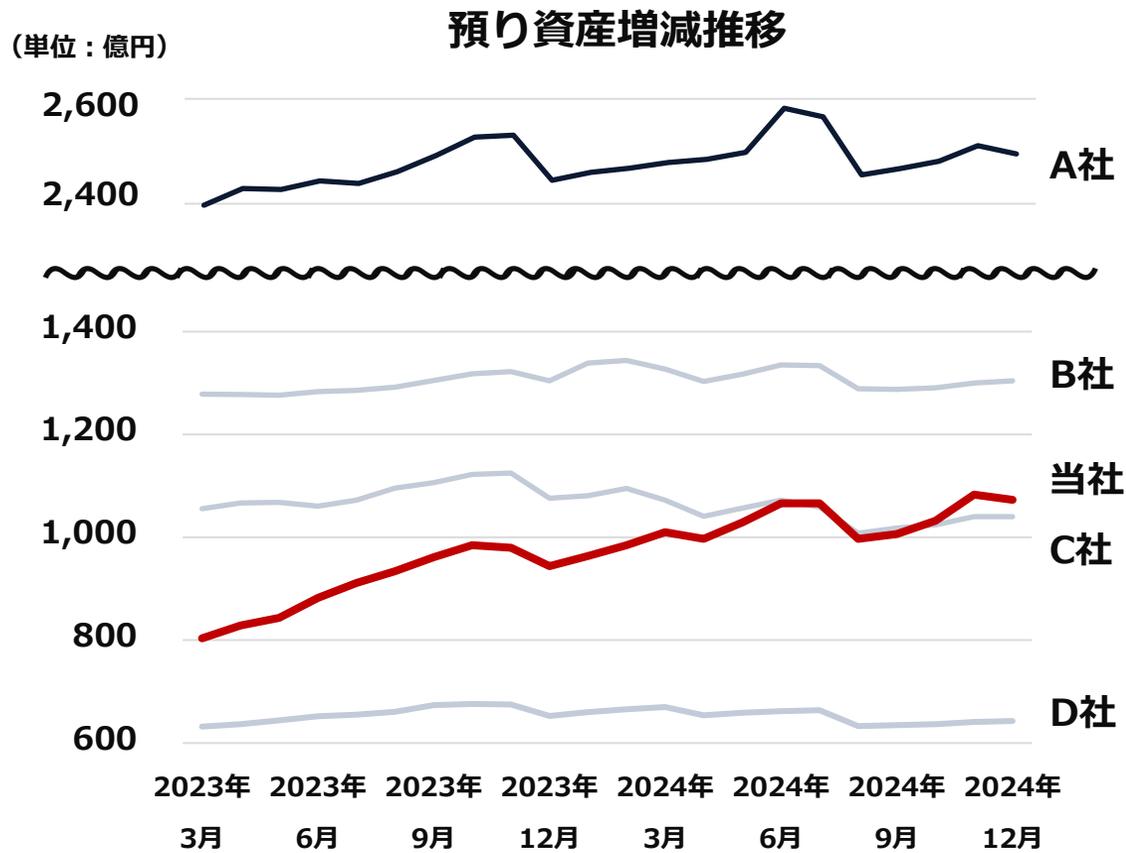
- ✓ 当社はみんなのFX、LIGHT FXで業界最高水準のспред、スワップを提供し続け、競争力のある商品性を訴求
- ✓ 顧客ニーズに精緻に合致した戦略的マーケティング活動を実施した結果、新規顧客の獲得が加速し、顧客基盤が拡大
- ✓ 2025年3月期は第2四半期に多額の顧客実現損失が発生し一時的に減少したものの、第3四半期に再び預り資産を回復させ成長軌道に乗せることにより上昇トレンドを維持

(単位：億円)



FX業界における預り資産他社比較

- ✓ 2024年4月～12月までの累計期間で、多くの業者が第2四半期の相場急落の後遺症から抜け出せない中、**預り資産が増加となった主要業者は当社を含めて2社のみ、かつ当社は純増額でトップとなった**
- ✓ 当社のサービスはスプレッド・スワップ等の取引条件で業界最高水準を維持しており、取引条件に敏感な顧客層の満足度が高く、幅広い顧客層から支持を集めていることにより、**預り資産の回復力の強さを示す結果となった**



2025年3月期 市況概況①

USDJPY (日足チャート)



市況概況

第3四半期では、10月米長期金利が上昇したことなどを受けて大幅に円安に。米雇用統計が想定外に強く、米長期金利が上昇したことや衆議院選挙で与党が過半数割れとなり、日銀の追加利上げが遅れるとの見方などから、前月末の143円台半ばから152円近辺に下落した。

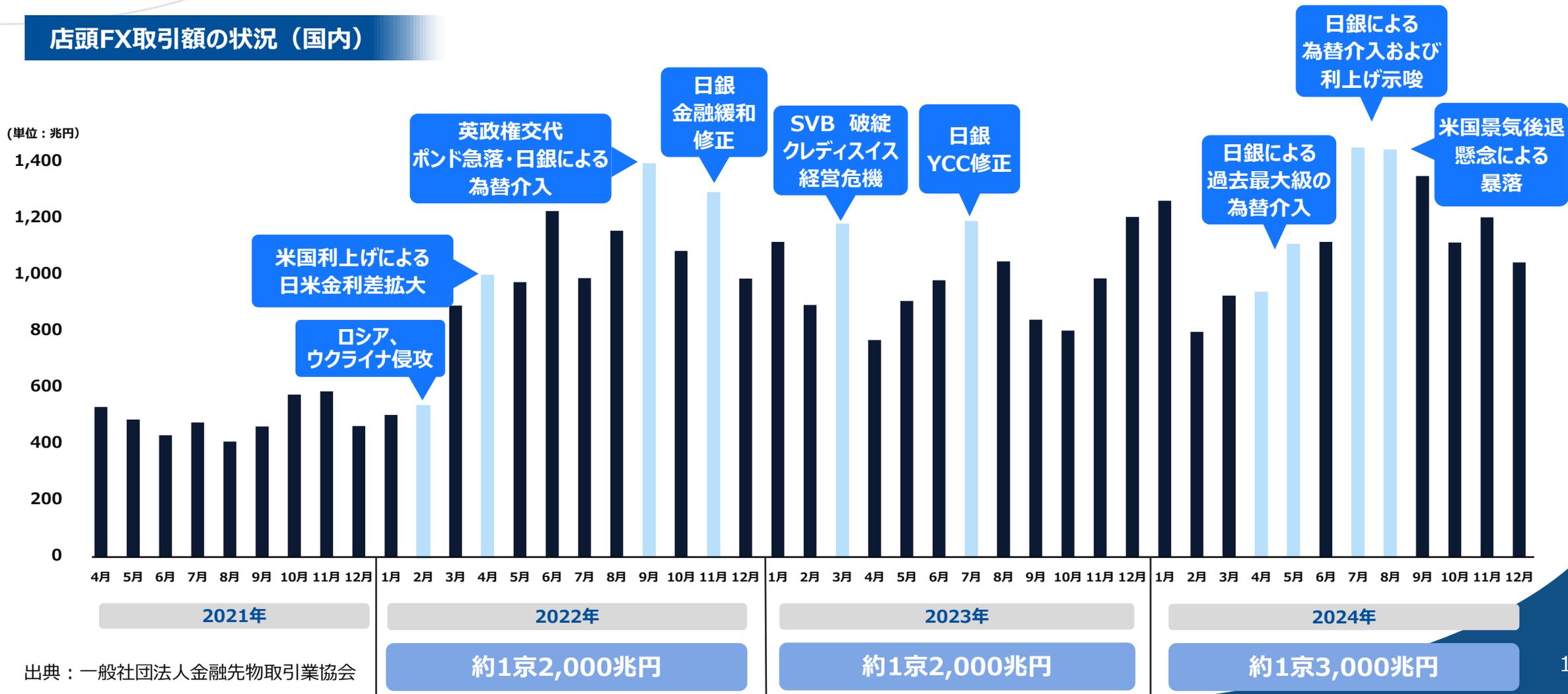
11月は米大統領選直後に米長期金利が上昇したことなどを受けて、一時大幅に下落するも、後半は米国長期金利の低下から円高基調へ。

12月は日銀の金融政策決定会合で利上げが見送られたことやFOMC後に米長期金利が上昇したことなどを受けて、円安となった。

2025年3月期 市況概況②

- ✓ 日銀による複数回の為替介入などにより、2023年に引き続きFX取引は活況
- ✓ 店頭FX取引額は引き続き高水準で推移し、**2024年は1.3京円を超える 1京円の突破は3年連続**

店頭FX取引額の状況（国内）



約1京2,000兆円

約1京2,000兆円

約1京3,000兆円

2025年3月期 市況概況③

- ✓ 2024年3月期に低水準であった市場変動率が、2025年3月期上期は上昇傾向
- ✓ 第3四半期は米大統領選まで高水準で推移したが、年末にかけて低下傾向となった

ヒストリカルボラティリティ※（ドル/円）の推移



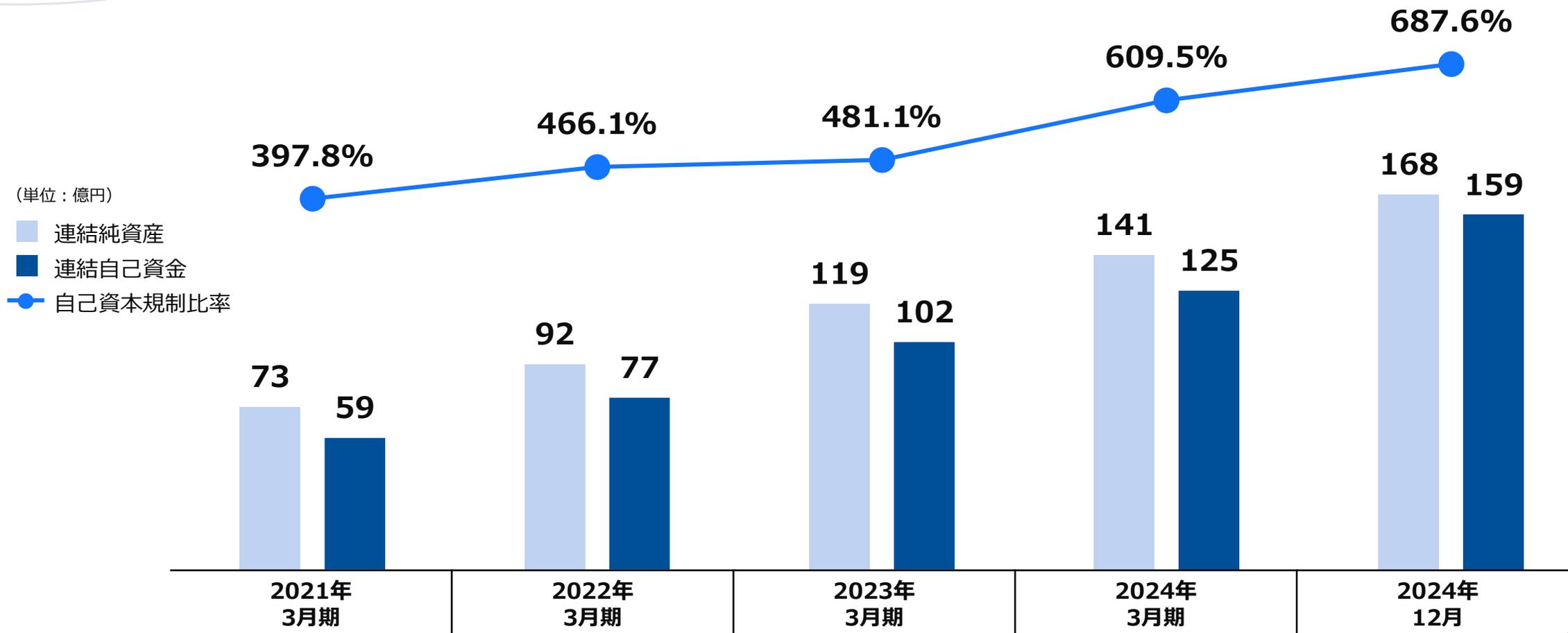
※ヒストリカルボラティリティとは、テクニカル分析手法の一つで、過去のデータに基づいて統計的に算出した価格の変動率のこと。
過去の価格変動が小さければ、ヒストリカルボラティリティは小さくなり、過去の価格変動が大きければ、ヒストリカルボラティリティも大きくなる。
上図では四半期会計期間である過去60日の値動きデータに基づき計算。

連結純資産および連結自己資金並びに財務安全性の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 業績拡大とともに**連結純資産が約30億円増加、連結自己資金が30億円超増加**し、財務安全性が更に強化
- ✓ 自己資本規制比率は687.6%へ上昇し、ストレステストの余裕率も上昇、将来のFX事業拡大に対するリスク許容度が向上



(注) 連結自己資金 = 連結現金預金 + 短期差入証拠金 - 有利子負債
(資金のうち顧客分別金を除いた当社グループに帰属する短期の自己資金)

金融を、もっと面白く。



2025年3月期決算 決算見通し

2025年3月期 決算見通し

金融を、もっと面白く。



- ✓ 上期は日銀による複数回の大規模な為替介入の実施および急激な円高の進行によるロスカット注文の急増により、取引量が大幅に拡大し、営業収益が大きく伸長したことで、営業利益が計画比で高進捗となった
- ✓ 第3四半期は上期に比した相場変動率の低下は予想どおりであったが、保守的に見込んだほど営業収益は落ち込まなかったため、第3四半期累計で期初業績予想の営業利益、経常利益および当期純利益を超過達成
- ✓ 第4四半期は引き続き相場変動率の低下予想を保持しつつ、期末の預り資産目標の達成へ向けたマーケティング費用の積極投入、決算による賞与引当金および税金等の計上による費用増加を見込んだ業績予想へ修正を行うこととした

(単位：百万円)	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (期初予想)	2025年3月期 (修正予想)	期初予想比	
				増減額	増減率
営業収益	10,103	11,800	13,200	1,400	11.9%
営業利益 (営業利益率)	4,412 (43.7%)	5,000 (42.4%)	6,300 (47.7%)	1,300	26.0%
経常利益	4,389	5,000	6,300	1,300	26.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,334	3,400	4,200	800	23.5%
預り資産	1,006億円	1,150億円	1,150億円	-	-

金融を、もっと面白く。



修正後業績予想達成に向けた2025年3月期の施策進捗

2025年3月期の取り組み（マーケティング①）

金融を、もっと面白く。



- ▶▶ 2023年7月に有吉弘行さんをTVCMに起用以降、新規口座開設数は約80,000口座増加
ブランド力強化、および認知度向上に向け、関東関西を中心に1月後半にTVCMを放映



TVCM

2025年1月に関東・関西エリアを中心にTVCMを放映
2023年7月のTVCM開始以降の新規口座開設数は約80,000口座増加



YouTube / WebCM

有吉さんのTVCMに加え、2024年8月より新規WebCMを開始 当社の強みである高スワップポイントが中長期の投資に活用できることを認知していただける内容で制作
投資の次のステージとしてのFXの魅力を訴求



屋外広告

当社オフィスの入居するガーデンプレイスタワーにつながる恵比寿スカイウォーク内に看板を設置

2025年3月期の取り組み（マーケティング②）

金融を、もっと面白く。



▶▶ 引き続き各種スワップ優遇キャンペーンを強化・拡充

「スワップNo.1チャレンジキャンペーン」の継続や「売りでもスワップNo.1チャレンジキャンペーン」を展開

新規口座獲得数および預り資産は順調に増加

- ✓ 「スワップNo.1チャレンジキャンペーン」を上期に続き第3四半期も継続して展開
業界最高水準のスワップを提供し、顧客資産の増加に寄与



- ✓ 新たに「売りでもスワップNo.1チャレンジキャンペーン」を展開
売りポジションに対してもスワップ優遇
様々な取引形態に対して優遇策を拡充



2025年3月期の取り組み（商品性）

金融を、もっと面白く。



▶▶ 「価格.com」に加えMINKABU 2025年版 FX会社年間人気ランキングにて2年連続の1位を獲得

✓ 「MINKABU」
2年連続で「人気部門」第1位を獲得
高金利通貨ペアにおける
業界最高水準のスワップポイント提供が高評価に

✓ 「価格.com」は各種製品やサービスの価格やスペック、クチコミ、
レビューを集約することで情報比較のサポートを行っている
月間利用者数3,700万人（2024年9月時点）の購買支援サイト
価格.comにおけるアクセス数・申込件数を集計可能な
FX口座16サービスのランキングで第1位を獲得
(集計期間 2024/1/1~6/30)



2025年3月期の取り組み（収益性）

金融を、もっと面白く。



- » 上期3行に加え国内金融機関1行（三菱UFJ銀行）を新規カバー取引先に追加
引き続き国内外の金融機関をカバー取引先として追加

【主要なカバー取引先】

- ・ シティバンク
- ・ UBS銀行
- ・ バンク・オブ・アメリカ
- ・ スタンダードチャータード銀行
- ・ バークレイズ銀行
- ・ コメルツ銀行
- ・ 東京金融取引所
- ・ 大和証券
- ・ OCBC証券
- ・ その他金融機関

【第2四半期追加分】

- ・ 三井住友銀行
- ・ JPモルガンチェース銀行
- ・ ドイツ銀行

【第3四半期追加分】

- ・ **三菱UFJ銀行**

2025年3月期の取り組み（大口顧客戦略）

金融を、もっと面白く。



▶▶ 4月新設の大口顧客戦略専門部署ロイヤルコンサルティング部は引き続き対面イベントを開催 大口顧客の再定義や様々な施策を開始

- ✓ **大口顧客を再定義し、より幅広くアプローチ**
- ✓ **担当制による個別コンサルティング**
 - ・ 担当制により顧客ニーズを明確に把握
当該大口顧客に特化した個別コンサルティングが可能な体制を構築
 - ・ 顧客接点増加に伴う良好な関係を構築
- ✓ **大口顧客限定の特典を充実**
 - ・ 有識者を招いた大口顧客限定セミナー・勉強会の開催
9月に続き12月、1月にもセミナーを開催
リアルイベント開催による直接的なコミュニケーション増加で顧客満足度を向上



大口顧客のロイヤリティ向上に寄与



“投資界の狂戦士”こと岐阜暴威さんにご登壇いただきFX投資にまつわる失敗談やエピソードを赤裸々に語っていただきました。

2025年3月期の取り組み（AIを用いたDX支援）



▶▶ FleGrowth：経済産業省が推進する「IT導入補助金2024」でIT導入支援事業者として採択される「AIサポートデスク」が補助金対象ツールとして認定 中小企業が導入する場合最大150万円の補助

- ✓ **経済産業省**が推進を行うIT導入補助金にAIサポートデスクが採択され、補助対象となる中小企業・小規模事業者が当社サービスを新たに導入する場合、最大で導入金額の**およそ1/2（最大150万円）の補助**を受けることが可能に
- ✓ AWS Summit Japan内で「AIサポートデスク」が実用化までの速度感や社内での有効活用事例、外販開始などについて評価を頂き、事例として掲出
- ✓ 導入企業増加に向け**営業部門人員を増加し基盤強化** 専属人員増加により商談数と共に顕在顧客増加 顧客ニーズを吸い上げ様々なソリューション提案を実行



金融を、もっと面白く。



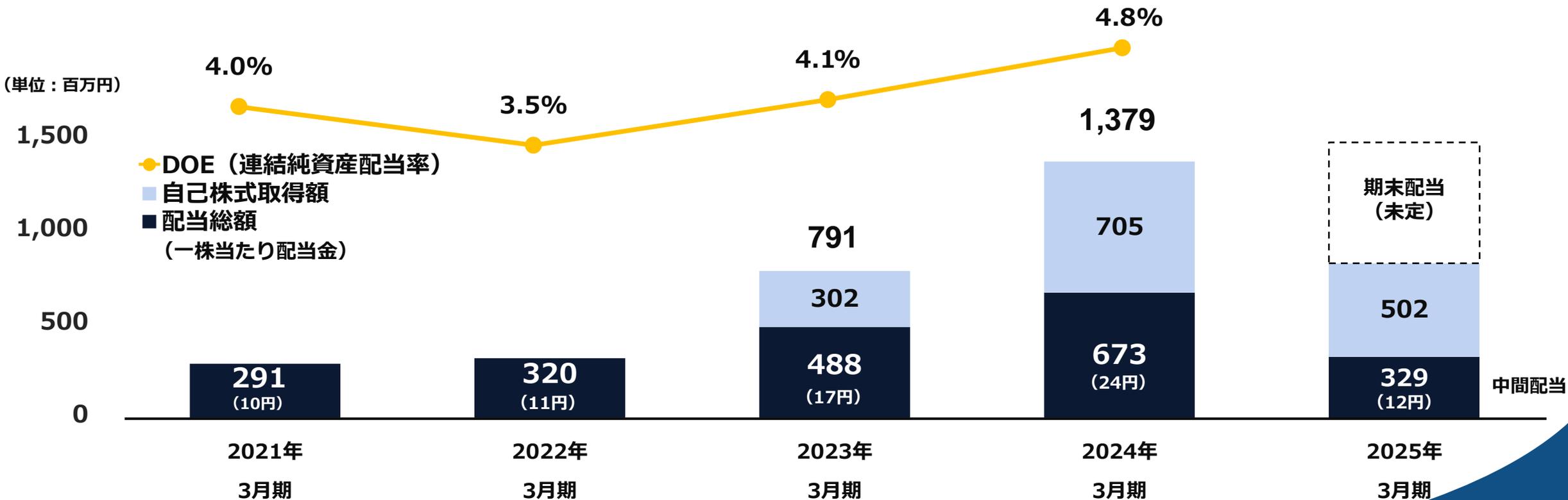
資本政策

株主還元

金融を、もっと面白く。



- ✓ 還元方針：連結純資産配当率（DOE）4%を目安に安定的な配当実施
機動的な自社株買いの実施
- ✓ 2025年3月期中間配当金は12円（前期年間配当金の2分の1を基準とする）
- ✓ 2024年8月に総額約5億円の自己株式を取得
- ✓ 2024年11月に国内子会社から総額約12億円の中間配当金を受領、来期以降の株主還元強化に向けた原資として準備
- ✓ 事業基盤である 트레이ダーズ証券の自己資本の増強に目配せしつつ株主重視の姿勢を継続し株主還元の充実をも目指す



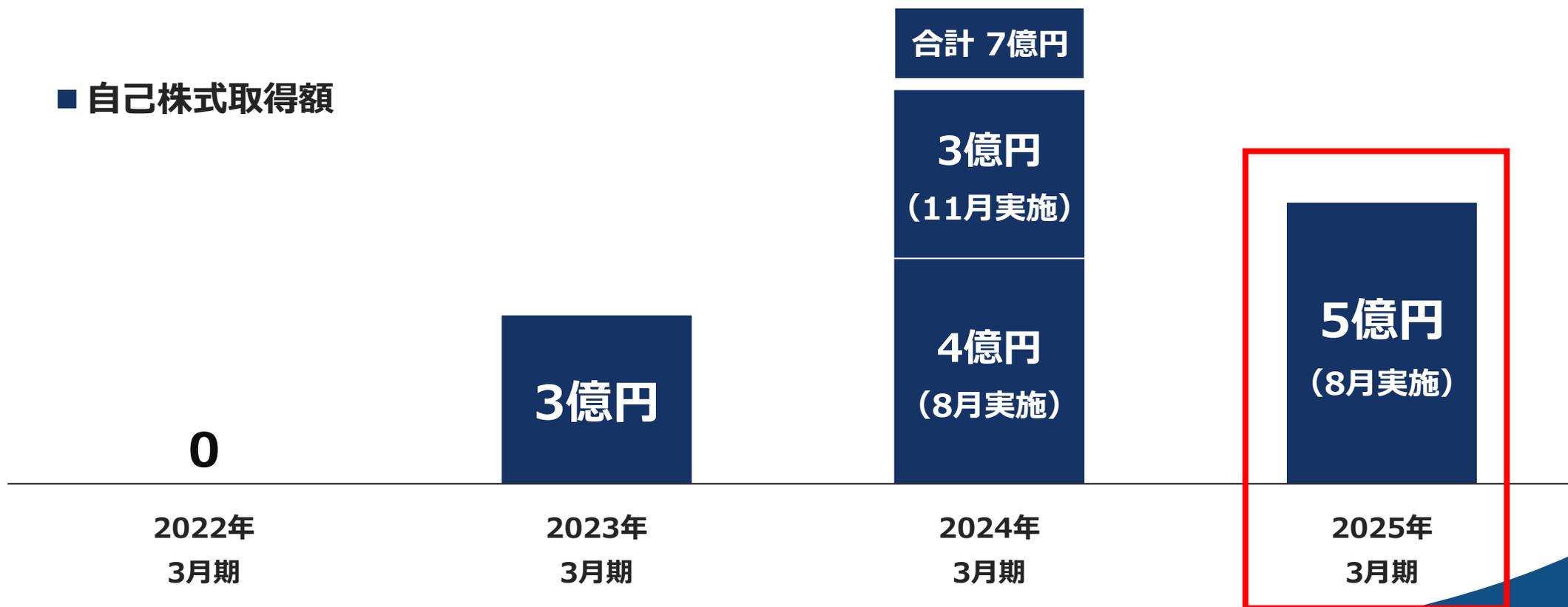
自己株式の取得

金融を、もっと面白く。



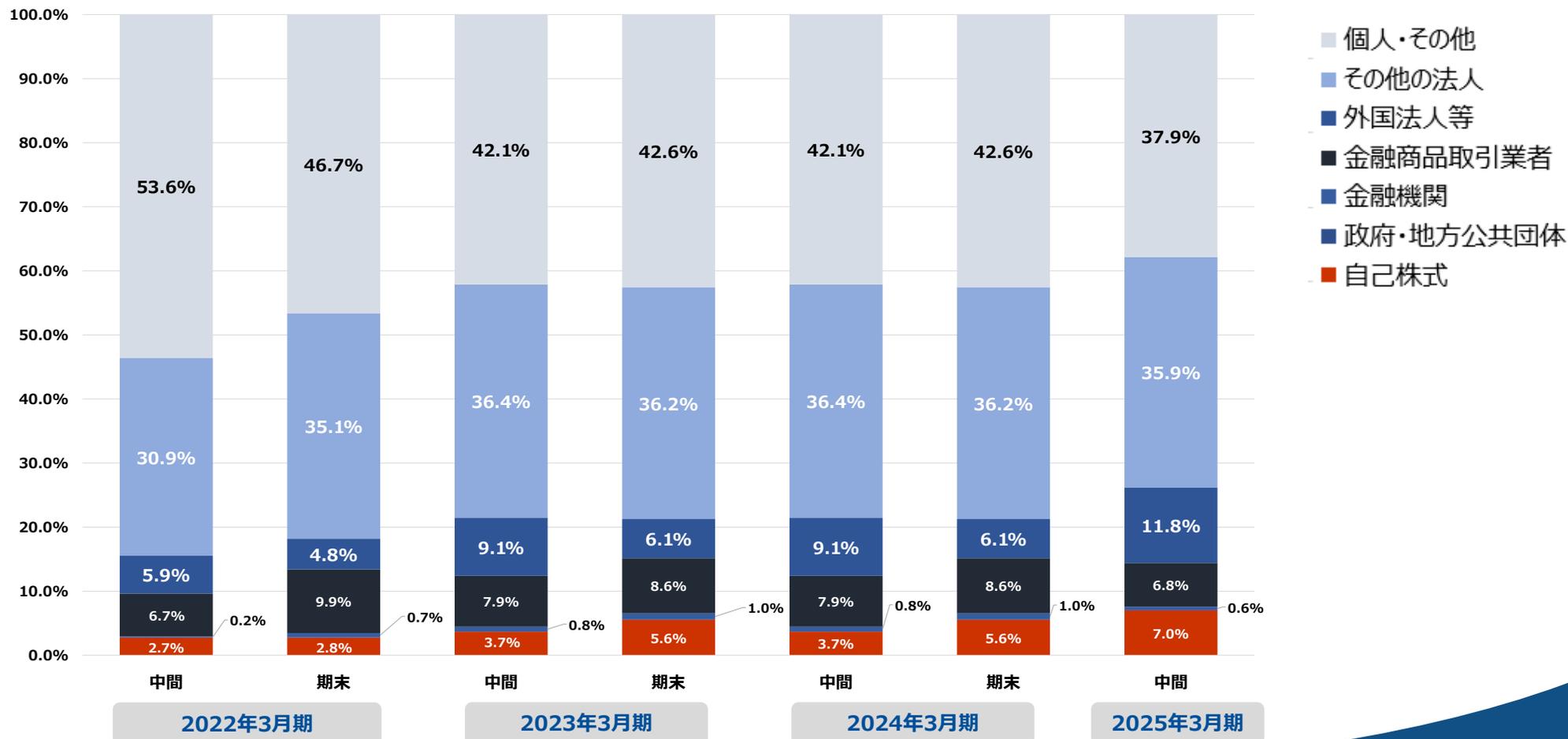
- ✓ 資本効率を改善させ株主価値向上に資するべく、機動的な資本政策の一環として自社株買いを行う方針
- ✓ 第1四半期決算発表後の当社株価の動向を注視し、2024年8月に機動的な自社株買いの実施を決定
- ✓ 取得した自己株式は将来的に見込まれる譲渡制限付株式報酬の支給およびストック・オプションの行使に充当予定
- ✓ 中長期的なROEの成長を目指し、業績の成長と株主還元強化による株主利益増加の両立を図る

■ 自己株式取得額



株式情報（保有状況分布表）

- ✓ 投資目線の厳しい外国人機関投資家の保有比率は6.1%から11.8%へ増加 個人株主による保有比率は42.6%から37.9%へ減少
- ✓ JPX日経中小型株指数への2年連続選定や時価総額の増加により、今後はこれまで当社を投資対象としていなかった大手機関投資家からの保有も見込まれる



プライム市場上場要件への適合状況（2024年12月末時点）

金融を、もっと面白く。



- ✓ 好調な業績を背景に企業価値を高め、第3四半期に流通株式時価総額および時価総額に関する基準をクリア
- ✓ プライム市場上場要件に係るすべての数値基準について「適合」を達成
- ✓ 今後は、プライム市場上場銘柄に相応しい高度なコーポレートガバナンス体制を確立していくフェーズへ移行
- ✓ また、時価総額は最低基準をギリギリ満たす“小粒なプライム銘柄”になることなく、新市場の優良銘柄となるに相応しい規模へさらに成長させていく必要があると認識
- ✓ 引き続き、企業価値のさらなる上昇に向け、事業による業績拡大とIR活動を通じた市場評価の向上を目指す

	プライム市場上場要件	当社の状況	適合状況
流通株式時価総額	100億円	140億円 ※1	○
時価総額	250億円	297億円 ※1	○
収益基盤 (直近2年間の利益合計)	25億円	81億円	○
財政状態 (純資産額)	50億円	168億円	○
株主数	800人	6,465人 ※2	○
流通株式数	20,000単位	139,013単位 ※2	○
流通株式比率	35.0%	47.1% ※2	○

※1 2024年12月末の株価 1株1,008円にて簡便的に計算 ※2 株主名簿情報は基本的に2024年9月末時点の情報を使用

金融を、もっと面白く。



Appendix

ワールドビジネスサテライトの撮影に協力いたしました

金融をもっと面白く。



弊社グループ本社オフィスのカフェエリア「金融をもっと面白くするエリア」およびディーリングルームが
テレビ東京WBS（ワールドビジネスサテライト）の年末特番およびトランプ大統領就任日の収録に活用されました



個人投資家の方々とWBS出演者の皆様に2024年の相場環境に関する座談会コーナーの撮影でご利用いただきました。セミナーのみならずスタジオとしての利用も可能です。

トランプ大統領就任時の相場環境変動時に取材いただきました。サインージでのチャート・値動きの撮影に加え、トレーダーズ証券取締役井口による今後の相場環境に関するコメントも撮影・放映いただきました。

投資魅力の高い会社として指数構成銘柄に選定

金融を、もっと面白く。



2年連続で「JPX日経中小型株指数」構成銘柄に選定



JPX-NIKKEI Mid Small

2023 - 2024年度選定

資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、「投資者にとって投資魅力の高い会社」が採用される「JPX日経中小型株指数」に2年連続で選定されました

□ JPX日経中小型株指数とは

- ✓ JPX総研と日本経済新聞社が共同で算出した、JPX日経400と同じコンセプトを中小型株に適用し、**持続的な企業価値の向上、株主を意識した経営を行っている企業**で構成する株価指数
- ✓ 東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場の対象銘柄の中から、定量的な指標のスコアリングに加え、定性的な要素を加えた基準で行われ、**上位200銘柄が選定**
- ✓ 2年連続選定銘柄はプライム市場133社、スタンダード市場9社、グロース市場8社と**圧倒的にプライム市場上場企業が多い中**での選定となりました

Sustainability Policy

トレイダーズグループの考えるサステナビリティ

これまで、わたしたちは様々なステークホルダー、すなわち株主、投資家、お客様、お取引先、社員、関係諸機関等と適切に協働し、もしくは支援を得ながら、企業として少しずつ成長の道を歩んでまいりました。当社グループは、上場会社として、また、様々な事業を営む企業体として、自己の利益だけを追求することなく、これからも、金融商品取引事業とシステム開発コンサルティング事業のそれぞれの活動そのものの中で、長期的に社会や環境に貢献しうるマテリアリティへの取り組みを進めてまいります。今後、当社グループの成長をけん引するために、ステークホルダーとの協働により、社会的価値と経済的価値を向上させ、または、創造する取り組みを推進することこそが、社会や環境面におけるサステナビリティを巡る諸課題に対する、わたしたちの義務と責任であり、使命であると考えています。

社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み①

当社グループが本社を置く渋谷区と連携し、区内の小学校と中学校において出張授業プログラムを開始



生徒の皆さんからのコメント

「日本の金利がほかの国と比べて本当に低いことに驚いた。」
 「最も印象に残ったことは、複利のチカラです。」
 「最初の方は何を言っているのかわからないことだらけだったけど、井口さんの話を通して理解できるようになり、ほかの人よりも得たと思うすべてのことについてプラスになったと思います。」

渋谷本町学園中学校での授業風景

昨年4月に東京都渋谷区の全ての公立小・中学校で探究「シブヤ未来科」が本格的にスタート。学校と企業が連携して進める形式の様々な探究プログラムの中から当社グループが渋谷区に提案させていただいた金融リテラシー向上支援を主眼とする出張授業プログラムを、区内の長谷戸小学校と渋谷本町学園中学校に採択していただき、両校ともに数カ月にわたり全5回の授業を終了。80%を超える生徒さんから肯定的な回答を頂戴しました。



児童の皆さんからのコメント

「とても分かりやすく簡単に税やお金、投資のことに
 ついて知れたので良かったです！」
 「日本だとこんなに少ない金利も海外に目を向けてみると、こんなにも違いがあるんだと驚きました。」
 「自分たちが新しい世の中を生き抜くための知識を得ることが出来ました。」

長谷戸小学校の児童たちの会社訪問風景

来年度も講師を派遣する出張授業や職場体験プログラムの実施、その他各種イベントへの参加を通じて、幅広い層の金融リテラシーの向上に資する金融経済教育活動を実行し、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み②

前期に引き続き高校生向けのジョブシャドウイングを実施
今期は2回開催し、**海外の学生からもご参加いただきました**



「金融教育の推進」の一環として、今期は7月と8月に2回「ジョブシャドウイング」プログラムを実施。神奈川県私立聖光学院中学校高等学校様は昨年引き続き2年連続での実施となりました。また昨年のジョブシャドウイングのリリースをご覧になったマレーシアのインターナショナルスクールISKLの日本人高校生の皆様が参加してくださいました。

以下参加者の皆様からのコメント

「仕事をしている人は辛そうなイメージだったのですが、**職場の雰囲気がかんنانにも良いと知り将来の希望を持てました。**」「社員の皆さまがそれぞれの目標を持ち、**自分を高めようとする姿を見て、自分も自己を高められる様になりたいと考えました。**」「**学校では学べないことをたくさん学べて他の人よりもアドバンテージがあり将来役に立つと思いました。**」



聖光学院中学校高等学校様の参加風景



The International School of Kuala Lumpur (ISKL)様の参加風景

※ジョブシャドウイングとは学生がさまざまな企業・組織の社員に一日同行し、どのような仕事をしているかを体感すること

トレーダーズホールディングス、トレーダーズ証券 FleGrowth：健康優良企業「銀の認定」を取得いたしました



当社グループ3社は、2023年12月に健康保険組合連合会東京連合会に向けて「健康企業宣言」を行い、健康づくりのための職場環境の整備等の具体的な取り組みを継続的に実施してきた結果、**健康優良企業「銀の認定証」を受領。**

職場の安全と社員一人ひとりの心身の健康を守り、従業員が社会的にも満足するという状態を作り出すために、ウェルビーイング経営に取り組み、従業員の活力向上に努めてまいります。

コーポレート・ガバナンスの高度化とより一層の充実に向けた取り組み

当社における東証「コーポレート・ガバナンス・コード」全原則のComply状況は前期に比べ4つ増加
残り4項目のComplyを目指す

①2023年6月時点（スタンダード市場）

②2024年6月末現在※（スタンダード市場）

※2024年6月27日のCG報告書提出時点

Comply **全原則83項目中** Explain

75

8

Comply **全原則83項目中** Explain

79

4

残り4つの
Complyに
向けて邁進

Complyに向けて当社が改善してきた主な事項

ポイント1！

グループとして取り組むべきサステナビリティ（持続可能性）活動を実践するための専門委員会（ESG推進委員会）を設け、企業として果たすべき社会・環境面での役割（例：金融リテラシー向上への金融経済教育）について、問題意識の共有、行動計画の立案とその実践によって、社会・環境との共生を目指す取り組みを推進

ポイント2！

多様性のある優秀な人材の確保、育成による活躍推進を目指す「人財育成方針」と「社内環境整備方針」の下、グループとしての具体的な到達目標を定め、持続的な業績拡大に資する従業員の労働意欲・生産性向上に向けた社内諸制度の整備や働き方改革を推進

ポイント3！

任意の指名・報酬委員会を設置し、社外取締役の役割・知見を活用した客観的・独立的な観点をもとに、指名・報酬に関する基準・方針、中核人材におけるジェンダー等の多様性確保、また、取締役会に求められるスキル向上等に関する集中的な審議を通して、取締役会の実効性を高める補完機能を強化

コーポレート・ガバナンスの高度化とより一層の充実に向けた取り組み

監査等委員会設置会社への移行

POINT 1

監査等委員である取締役にも
取締役会において**議決権を付与**

取締役会の監査・監督機能を強化
コーポレート・ガバナンスの一層の充実
及び企業価値の向上を図る

POINT 2

取締役の指名・報酬等に関する手続きの
客観性、透明性、公正性を強化

実効的なコーポレート・ガバナンス体制を
より一層充実させるため、
取締役会の任意の諮問機関として
委員の過半数を社外取締役で構成する
指名・報酬委員会を設置

POINT 3

重要な業務執行の決定の一部を
業務執行取締役に委任

機動的な意思決定の実現を推進



新中期経営計画

— FX業界のTOP3へ —

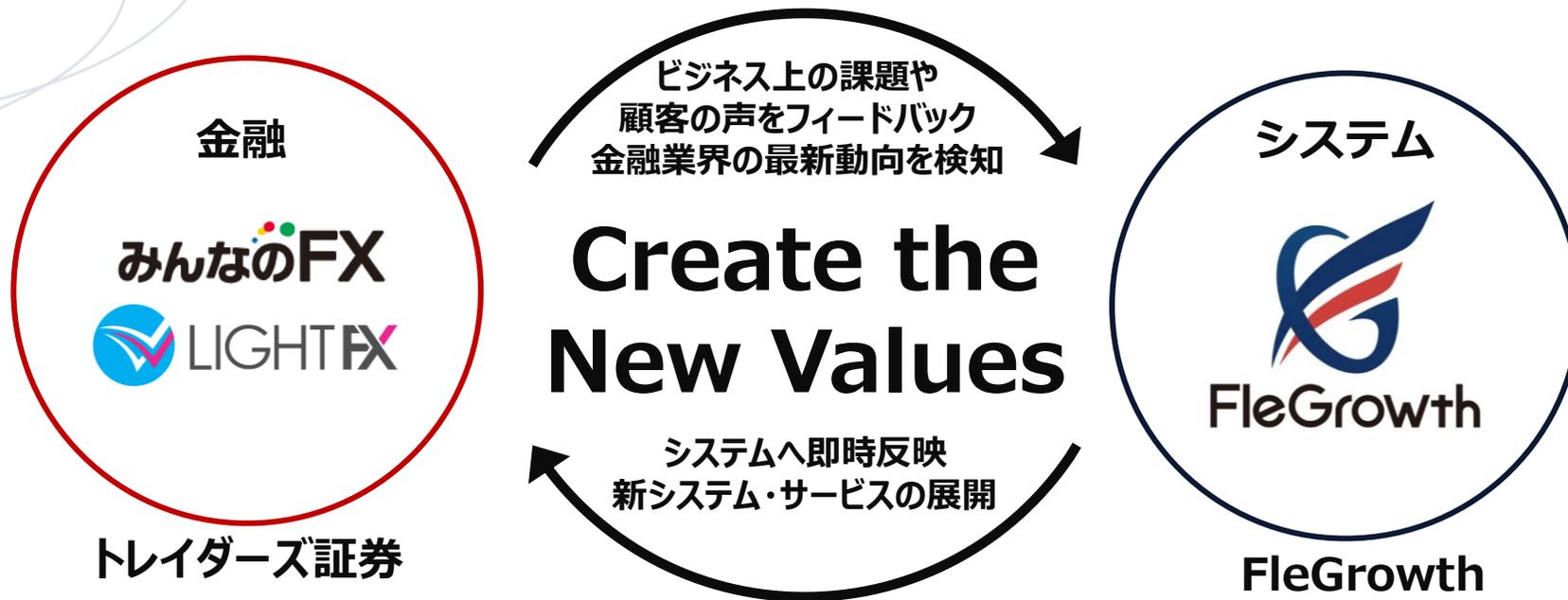
2027年3月期末

預り資産目標

1,450億円

当社グループの競争優位性（金融とシステムの融合）

金融を、もっと面白く。



01

Cost

完全子会社であるグループ内システム会社による自社開発であるため、グループ全体としては

**原価でシステム開発が可能
開発コストを低減**

02

Speed

トレーダーズ証券とシステム開発担当者が同一オフィス内において現場との密接な連携が可能
コミュニケーションロスがなく
改善点の吸い上げ・即時修正対応が可能

**サービスリリースまでの
早期化が可能**

03

Quality

20年以上、FXシステムを開発してきたエンジニアたちが
当社FXシステムに専念し

**圧倒的な安定性と利便性
処理速度**を実現

04

Know-How

長期間FXに関して携わってきたことによる経験によって
高い問題解決能力を保持

自社内にノウハウは蓄積され
将来に渡って**競争力の源泉に**

金融を、もっと面白く。



MISSION

ミッション

新たな価値を創造し続ける

Create the New Values

VISION

ビジョン

お客様から最も信頼される“FinTech”グループとなり、
だれもが未来に投資できる社会を実現させる

金融を、もっと面白く。



VALUE

バリュー

トレーダーズ
ホールディングス

関わるすべての“人”を大切にしながら、
コンプライアンスとダイバーシティ（多様性）を尊重した経営で、
変革にチャレンジし続ける

トレーダーズ証券

金融リテラシーの向上に貢献しながら、
お客様と社会が求める新たなサービスの提供にチャレンジし続ける

FleGrowth

競争力のあるサービスを提供しながら、スピード感をもって
安定的かつ革新的なシステム開発にチャレンジし続ける

本資料に関する注意事項

当資料に掲載されている事業戦略や目標数値、見通し等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断した内容であり、実際の業績等の結果は、今後の経済情勢や事業環境、為替市場の動向等、様々な不確定要素その他リスク等に起因して、記述とは大きく異なる可能性があります。

また、マーケットシェアや市場規模等の数値について一部当社の推計値が含まれており、調査手法等によって異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に関するお問合せ

トレーダーズホールディングス株式会社
ir@tradershd.co.jp (IR担当)



金融を、もっと面白く。